

北斎

かわらばん

第二十三号



百人一首うはかゑるとき

源宗千朝臣

「百人一首うはかゑるとき 源宗千朝臣」(大判錦絵) 天保6年(1835)年頃

北斎作品最後のシリーズもの「百人一首うはかゑるとき」のうちの一回で、平安中期の歌人・源宗千の和歌「山里は冬ぞさみしきまさりけり人目も草も枯れぬと思えば」を表現した作品です。歌の意味は、「山里はただでさえ寂しいところなのに、冬はなおさら寂しく感じられるなあ、人の行き来もなくなり草も枯れ果ててしまったと思う」という内容です。

北斎は、獵師たちが焚火を囲む賑やかな様子と、雪が積もる荒れた山小屋や背景の暗い山並など静かな周辺の情景を対比して描き、冬の山里の寂しさを強調しています。さらに山小屋の中に見える古びた釜戸が、深閑とした様子を表現しています。

この「うはかゑるとき」とは「乳母が絵解き」のことで、乳母が子どもに教えるように百人一首をわかりやすく絵解きするという意味です。

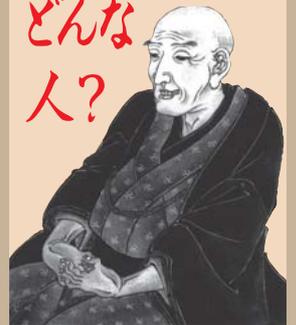
このシリーズは当初全首一〇〇図を出版する予定でしたが、現在出版が確認できる作品は二十七図しかありません。歌の意味と図柄の結びつきがわかりにくかったため、一〇〇図の刊行に至らなかったと考えられています。しかし、雅な貴族の姿や庶民の営みを活き活きと描き出した作品群は見ごたえのあるものといえるでしょう。



山小屋にひっそりと置かれている釜戸

【発行】
墨田区区民活動推進部
文化振興課
北斎美術館開設担当
(墨田区役所1階)
☎03-5608-6115
【編集協力】
(公財)墨田区文化振興財団
北斎事業課

北斎さんは
どんな
人?



ユーマアに
富んだ

北斎は
いろいろなこと
にチャレンジ
しました

川柳

今回は
川柳を
つくる人として
紹介します

ながし」という川柳(北斎作か)は
不明)が記されています。江戸時
代には、水を汲み出して井戸の
大掃除をする井戸替が行われ
ており、近所で協力して行いま
した。

が、全身を使って井戸の水を
汲み出しており、リズム感のあ
る川柳の響きとあいまって、躍
動感ある描写が鑑賞者の心
を浮き立たせます。

川柳とは

今回は、北斎と川柳にまつ
わるお話です。川柳とは、五・
七・五の十七文字から成り、
俳句より自由なスタイルで、
身近なものをユーモアをこめて
表現する短詩です。現在でも
サラリーマン川柳などでおな
じみの川柳ですが、明和二年
(一七六五年)に初編が刊行
された『誹風柳多留』という
句集が始まりとされています。

川柳を戯画で表現

北斎は、文化(一八〇四)〜
一八一八年)後期より、戯画
(物事を風刺的に描いた絵)を
多く描いています。図1はその
頃に描いた「風流おどけ百句」
シリーズの一図です。画中には、
「井戸替に下女くれぐれも銀

ながし」という川柳(北斎作か)は
不明)が記されています。江戸時
代には、水を汲み出して井戸の
大掃除をする井戸替が行われ
ており、近所で協力して行いま
した。

この句では、
井戸に落とし「銀
ながし」すなわ
ち銀メッキの簪
を、井戸替の際
にくれぐれも
見つけてくれと
下女が頼んでい
る様子が表さ
れており、北斎
は、井戸の水
を汲み出して
いる様子を描い
ています。妙に手
足の長い人達



図1 「風流おどけ百句(井戸替え)」

川柳の世界でも活躍

北斎は自身でも川柳
を作っており、『誹風柳多
留』には、文政(一八一八
〜一八三〇年)中期に、北
斎が「田」という名で発表し
た川柳がのっています。さら
に北斎は、『誹風柳多留』
八五編に序文を記したり
句撰をしたりと、川柳の世
界でも目立った存在でし
た。北斎一門では、娘の栄
や弟子の北馬なども『誹
風柳多留』に多くの句を
寄せています。ここで北斎の
川柳を一句。

団子屋の

夫婦喧嘩ハ犬も喰

(『誹風柳多留』八八編収載)

「夫婦喧嘩は犬も食わな
い」とは今でもおなじみの諺
ですが、北斎はそれを「ひねり
しており、団子が飛び交うよ
うな団子屋ならではのユーモ
アに富んだ夫婦喧嘩に仕立て
ています。



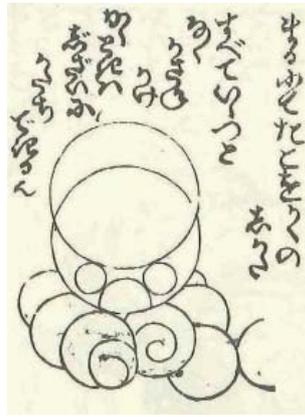
図2 『北斎漫画』十一編より

また、川柳が記されていない
作品でも、川柳的な発想がみ
られるものがあります。図2は
『北斎漫画』十一編のうちの
一図ですが、恥をかかせるとい
う意味の慣用句「顔に泥を塗
る」をそのまま描いたものです。
諺を「ひねり」した前述の川柳
と発想が似ています。

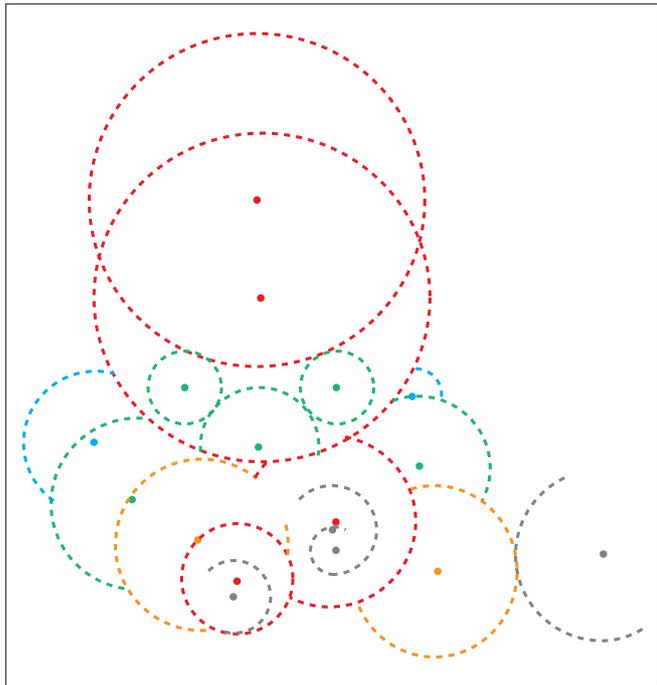
北斎はユーモアに富んだ絵を
多く描いていますが、それには川
柳を通して鍛えられた笑いのセ
ンズも活かされているようです。



②



①



③

今回は夕コに挑戦します！お手本は前回と同じ『略画早指南』です。①の描き方の図解右側には「まるにてたこをかくのしかた」と書いてあります。確かに丸がたくさん描かれていますね。



では、③の小さな点にコンパスの針を立て、点と同じ色の線をなぞって描いてみましょう。頭は大きな丸を二つ、ずらして重ねます。小さな丸で目と口を描き、それよりも少し大きい丸で足の形を取っていきます。右下の半円は、伸びている足を表しています。②を参考に、足の内側に吸盤と顔や頭に斑点を描けば、夕コの出来上がり。ユーモラスな表情の夕コが描けましたか？

①には「まるでたこを書く方法。いくつも重ねて書くと自由に形を描ける」、②には「(右側の)半円は細長い足を表す」という意味の言葉が書かれています。

夕コを描こう



「仮名手本忠臣蔵 十一だん目」

元禄十五年(一七〇二年)十二月十四日、赤穂藩の大石内蔵助ら四十七士が、吉良邸に討入り、見事主君の仇討ちを果たしました。世にいう忠臣蔵のお話です。その約六十年後に誕生する北斎と忠臣蔵の間には、深い縁がありました。討入りの夜、吉良上野介を守って討ち死にした吉良家家臣の小林平八郎は、北斎の母方の曾祖父であったといわれています。北斎は、このことを自ら語っていたそうです。

北斎と忠臣蔵の意外な縁

また、北斎は吉良邸跡地の一角に位置する本所松坂町に住んでいた幕府御用鏡師の中島伊勢の養子に入ったともいわれています。北斎は、かつての吉良邸が建っていた場所ので幼少期を過ごしていたのかもしれない。このように北斎と忠臣蔵には時を越えて意外な縁がありました。なお現在、吉良邸跡の一部が墨田区両国三丁目の本所松坂町公園となっています。

すみだと北斎

映像で見る北斎の画力！ DVD「北斎漫画 天才絵師が見た宇宙」

『北斎漫画』は、葛飾北斎による絵手本の傑作です。絵手本とは、絵を学ぶ人の教材や工芸図案集として用いられた画集のことです。北斎は人間や自然の営み、動植物、妖怪など森羅万象をダイナミックに描き、天才絵師としての技量を最大限に発揮しました。同時代の西洋にも紹介され、印象派やアールヌーヴォーなどの芸術に影響を与えています。このDVDでは、『北斎漫画』を中心に、遊び心と奇抜な発想があふれる北斎絵手本の世界を探訪します。

本DVDは、区立図書館や文化振興課北斎美術館開設担当で貸出しをしています。お気軽にお問い合わせください。

- 収録時間 約16分
- 対応言語 日本語・英語
- 問い合わせ 文化振興課北斎美術館開設担当
☎ 03-5608-6115



「富士山の浮世絵」

— 太田記念美術館（渋谷区）

2013年6月、世界文化遺産に登録されたことで、富士山が話題となりました。太田記念美術館では、浮世絵師たちが描いた富士山の展覧会を行います。当展では、北斎の描いた「富嶽三十六景 東都浅草本願寺」も展示されます。初詣とともに初富士をご覧にならないかがうかがいましょうか。

■ 会期 平成26年1月3日（金）～

1月26日（日）

■ 問い合わせ ☎ 03-5777-8600

（ハローダイヤル）

【北斎関連展覧会のご案内】

国際浮世絵学会創立50周年記念

「大浮世絵展」

— 江戸東京博物館（墨田区）

江戸東京博物館では、浮世絵研究の成果を世界に発信している「国際浮世絵学会」の創立50周年を記念して、日本国内及び世界各地から集めた浮世絵の代表作品約340点が展示されます。北斎の代表作である「富嶽三十六景のシリーズ」凱風快晴「神奈川沖浪裏」などもご覧いただけます。

■ 会期 平成26年1月2日（木）～

3月2日（日）

■ 問い合わせ ☎ 03-3626-9974

すみだ発!
北斎
がオリジナルグッズ

⑥
株式会社石山染交
お手ふき

墨田区では、区内でものづくりに関わる方々の商品開発の一助となるように、すみだ北斎美術館に収蔵する北斎作品の画像を商用目的でご利用いただく事業を行っています。

今回、紹介する「すみだ発！北斎オリジナルグッズ」は、北斎作品の画像をプリントしたお手ふきです。

『北斎漫画』の中の「すずめ踊り」と



呼ばれている有名な絵を使用し、現代の動画のような軽快なリズムと躍動感を表現しています。北斎を巧みに取りこんだすみだの新品です。
なお、現在区内事業者を対象に、北斎作品画像の無料貸し出しを行っています。

詳しくは、（公財）墨田区文化振興財団までお問い合わせください。

【商品に関する問い合わせ】

株式会社石山染交

☎ 03-3625-8211

【画像利用に関する問い合わせ】

（公財）墨田区文化振興財団

北斎事業課

☎ 03-3829-4122

下記ホームページでは、すみだ北斎美術館のダイジェスト映像や、無料でダウンロードできるスクリーンセーバーなどをご用意しております。是非、ご覧ください。

<http://hokusai-museum.jp>



すみだ北斎美術館